第32回 金子匡一喜寿記念 松山喜多流能

平成29年7月9日(日)午後1時始
松山市民会館小ホール能舞台

養老

金子敬一郎

経政

金子匡一

狂言「蝸牛」古川喜朗
仕舞「枕慈童」友枝昭世(人間国宝)

主な出演者(重要無形文化財総合認定者)

シテ方 喜多流
金子匡一　金子敬一郎
友枝昭世(人間国宝)　大島政允　香川靖嗣　塩津哲生　粟谷能夫　出雲康雅
中村邦生　狩野了一　友枝雄人　佐々木多門　大島輝久
塩津圭介　佐藤寛泰　金子龍晟

ワキ方 下掛宝生流
坂苗融　坂苗功

大鼓方 葛野流
亀井広忠

小鼓方 幸流
曾和正博

笛方 森田流
杉信太朗

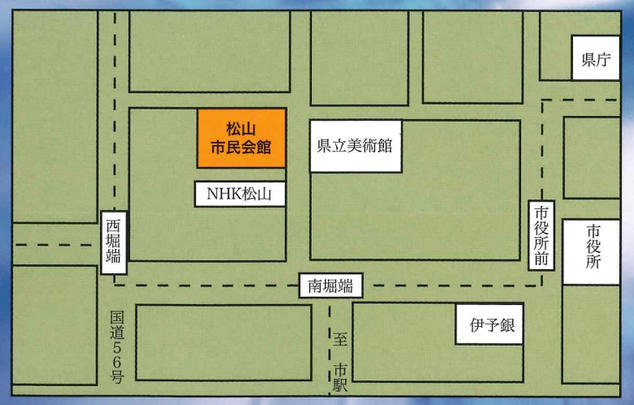
太鼓方 金春流
前川光長

狂言方 大蔵流
古川道郎　古川喜朗

チケット申込やお問合せ先
〒790-0856 松山市南町2-2-12
TEL 089-931-6928(金子舞台)
E-Mail kyou1@mac.com

鑑賞券10,000円

会場
松山市民会館
小ホール能舞台
愛媛県松山市堀之内　TEL 089-931-8181



主催　金子匡一後援会・愛媛喜多会

後援　愛媛県・愛媛県教育委員会
松山市・松山市教育委員会
愛媛新聞・南海放送株式会社
テレビ愛媛・あいテレビ
愛媛CATV・松山芸能文化協会
(社)愛媛能楽協会

許可無き者の演能中の写真撮影、録音、録画は固くお断り致します。

番組

…解説…　大島輝久

能
養老

シテツレ・男　金子龍晟
後シテ・山神
前シテ・老翁　金子敬一郎
ワキ・勅使　坂苗　融
ワキ・従者　坂苗　功
アド・里人　古川道郎
後見　塩津哲生
友枝雄人

大鼓　亀井広忠
小鼓　曾和正博
太鼓　前川光長
笛　杉　信太朗
地謡　佐藤寛泰　狩野了一
大島輝久　出雲康雅
佐々木多門　粟谷能夫
塩津圭介　中村邦生

…休憩二十分…

狂言
蝸牛

シテ・山伏　古川喜朗
アド・主人
アド・太郎冠者　佐々木泉
古川道郎

仕舞
枕慈童　友枝昭世

…休憩十分…

能
経政
烏手

シテ・経政の亡霊　金子匡一
ワキ・行慶　坂苗　融

大鼓　亀井広忠
小鼓　曾和正博
笛　杉　信太朗
地謡　金子龍晟　友枝雄人
塩津圭介　香川靖嗣
大島輝久　友枝昭世
佐藤寛泰　狩野了一
後見　大島政允
佐々木多門

終了予定　午後五時頃

養老（ようろう）
ある初夏の事。美濃国本巣の郡で霊泉が湧き出たと言う知らせが入り、雄略天皇は勅使を使わせる。
勅使一行は泉の付近で樵夫の親子に出会い、この泉に養老と名付けた謂れを尋ねる。すると、この二人こそ霊泉を見つけた親子であり、親孝行の徳がむくわれてこの滝の奇特を受けた事、また、この水を飲むと心が爽やかになり疲れも取れ、若返ったので養老と名付けたと語る。
続いて勅使を滝壷に案内した老人は、他の霊泉の例を挙げつつ、尚も泉の奇特を讃える。
事の次第を理解した勅使は、これに感動し、急いで都へ帰り天皇に報告しようとする。その時、不思議にも天から光りがさし、美しい音楽が響き渡り、あたりに花が散り、この世と思えない程の様子となる。
すると養老の山神が現れ、清らかな滝の水をたたえて神仏同体である事を述べて、吹き渡る風や、川を流れる水の音を伴奏に舞を舞う。そして、泰平の世をたたえ帰って行く。

附子（ぶす）
出羽の羽黒山から出た山伏が、大和の葛城山で修行をつんだ帰り道に薮の中で寝ていた。そこへ長寿の薬になる蝸牛を取ってこいと主人に命じられた太郎冠者がやって来て、蝸牛を知らない太郎冠者は山伏を蝸牛と思ってしまう。山伏は蝸牛になりすまし、頭や角を示して見せるものだから尚更信じ込み、主のところへ連れて行こうとする。山伏は囃子物の拍子に乗らねば行かないといい、囃子物を教え二人で浮かれる。そこに迎えに来た主人は驚いて……

経政烏手（つねまさ　からすで）
源平の合戦で戦死した平経政の追悼のため、経政と親しかった仁和寺門跡・守覚法親王のもとで法要が営まれることとなる。仏前には経政が生前愛用した琵琶の名器『青山（せいざん）』が置かれ、法親王の弟子・行慶僧都らが冥福を祈っていると、灯火の影に経政の霊が姿をあらわす。
しかし行慶が姿を見ようとしても、霊は定かに見えず、声だけが聞こえてくるのであった。僧たちは音楽を愛した経政のために管絃を手向け、経政も琵琶を弾きはじめる。ひとときの夜遊に心慰める経政であったが、俄かに苦しみの様相を見せ、灯火のもとに姿を現す。経政は修羅の苦患に苛まれつつも、自らの姿の見えることを恥じ、灯火の中に飛び込んでしまう。吹き消された灯火の暗闇の中に、経政の霊は消えてしまうのだった。
小書「烏手」は琵琶の音に惹かれて経政の亡霊が現れるところを笛の独調で表す森田流笛方だけにある習の小書。

次回予告　平成三十年七月八日（日）
第三十三回松山喜多流能
「望月」金子敬一郎